

- [The Age of Mummujoxuru](#)
- [0 AC](#)
- [0 - 500 AC](#)
- [501 - 524 AC](#)
- [525 - 631 AC](#)
- [632 - 654 AC](#)
- [655 - 849 AC](#)
- [850 - 997 AC](#)
- [998 - 現在](#)

## The Age of Mummujoxuru

### マミュージョクスの時代

エンクレイブ・オブ・ファイブ・サクリフェイス（5つの犠牲の飛地：現在の民の文明のこと）の中でもマミュージョクスの時代についてよく教育された者はほとんどいない。現在生きている人類はアウェイクンド（マミュージョクスの破壊に生き残り、スベルボーンの世界で永い眠りから覚めた者たち）の遠い子孫であるが、しかしながらエンクレイブの歴史の記録はそのときから始まっており、祖先の物語を覚えている者はまったくというほどいない。人々がマミュージョクスと言うときはたいてい「アンセスターワールド（祖先の世界）」または「エンパイアオブジエイトデーモン（8人の悪魔の帝国）」を意味する。マミュージョクスという名前は文字を正しく翻訳したものが、エンクレイブの学者が後に考え名づけたものなのかわかっていない。

セック＝ソタイルの古文書によれば、マミュージョクスは神、または神のような存在によって支配された帝国であった。彼らは多くの種族を生み出し従え、寺院や宮殿、魔法で作られた街などの巨大な世界を支配した。古文書にはその帝国で人類がどんな役割を演じたかははっきりと記されていない。しかしながら、マミュージョクスの帝国は従僕させる種族を気まぐれや好みで作り、彼らは魔法によって人間性が与えられたのか、征服されていたのか、またはとりにこにされていたのか気にすることもなかったと、古文書に繰り返し言及されている。セック＝ソタイルの古文書に最も目立って描かれているのがムーミアとヴェルガーである。ムーミアとはマミュージョクスの8人の神のような主人を指す。セック＝ソタイルを研究した学者達はその8人の正確な名前や記述を探ることを拒み、そのような研究はエンクレイブの社会に危険をもたらすと警告しているため、彼らは無名のままである。ヴェルガーとは帝国と8人に従った竜のような亜神である。彼らはムーミアのために数百の種族を作り出し、アンセスターワールドの究極の破壊の手段となった。次の記述はハイ克蘭（高院）の学者ルアト＝サビウムによりアウェイクニング（目覚め）から後632年に公開されたセック＝ソタイル古文書の要約である。

## The Uracopeia

### ユーラコペイア

これはマミュージョクスの最も古い期間であり、セック＝ソタイルの古文書によると「征服と犠牲の時」とされている。これより前の時代と世界があったと信じる学者も何人かいるが、それはアンセスターワールドとは何の関係もないようである。この時代には手がかりと噂しか残されていない。

## The Epoch of the Mumia

### ムーミアの時代

ユーラコペイアの期間がムーミアの時代にさしかかると、8人が台頭し、彼らのアンセスターワールド支配の時代が幕を開ける。セック＝ソタイルには8人の搾取が繰り返し誇張されており、彼らの創造、戦闘、探求の解説は神聖なるプロバガンダとして破棄されたに違いなかった。しかしながら、ムーミアはマミュージョクスを見つげなかったという根本的な核心は指摘されていた。

## The Epoch of the Vhelgar

### ヴェルガーの時代

ヴェルガーの時代はムーミアが彼らを作り、「月と太陽を越えよ」と帝国を作ることを命じて始まった。セック＝ソタイルの古文書の物語には数百ものヴェルガーが8人のための巨大な街、神殿、寺院の建築に浪費されたと何行にも渡って詳しく描かれている。これがセック＝ソタイル文書のなかでムーミアまたは8人が「エイトデーモンズ（8人の悪魔）」として描かれる初めての部分である。この文書の著者を決定することはできないが、「悪魔」という語を用いていることから、このとき既に反乱が底流していたが、崇拜の呼称が何かとしてこの語が使われていたことを示している。

## The Time of Night 's Dawn

### 夜明けの時代

夜明けの時代の間には混沌と不安定の最初の兆候が現れた。セック＝ソタイルは8人の神のような慈愛と力をととも詩的に描いているが、ムーミアが彼らの呪われた楽園の雑事に興味を失い、ヴェルガーをヴールやアーヴァイルといった従僕していた種族ととも放置していたことを、とともはっきりと見分けることができる。また、エイトハイ克蘭オブマン（人の8つの高院）への言及も初めて記録されている。

## The Era of Black Chaos

### 黒き混乱の時代

セック＝ソタイルはこの期間を説明するのに最適な断章である。ハイ克蘭オブマンによる政治的闘争、反乱、蜂起についての文献は増加している。また、ここで8人と人類の子孫であるデーヴィが初めて描かれる。神話的な才能を受け継ぐ生物として描かれ、デーヴィの不滅の存在である親々の畏怖と従僕した種族たちへの潔白さが文全体に渡って記されている。これらは結果として彼らがハ

イクランと同盟を探ることにつながる。この同盟はマミュージョクスルに対する全蜂起へとつながり、ムーミアとヴェルガーが結果としてアルターオブアンダイング（不滅の祭壇）を粉碎しアンセスターワールドを破壊することになった。[ルアト=サビウムによる注釈：この最後の部分はイクランの英雄たちにより記された年代記ブックオブアウェイキング（目覚めの書）から転載であり、セック=ソタイルはずっと前の期間で終わっている。]

アンセスターワールドやその時代の生物の起源はほとんど知られていない。歴史は漠然としていて確かな名前や場所があっても出来事の正確な日時を定義することはできない。

祖先の文書は世代から世代へと受け継がれ、絶滅してしまったと思われる種族や生物にも言及している。歴史家に知られているひとつのことはエイトデーモンズエンパイアと呼ばれていたものはもうないということだ。もし8人の"悪魔"が実際に伝説上の生物だったとしたら、誰も知らない、彼らはたぶん人間かなにか失われた種族で絶対的な力を持っているように見えたため、事実上の悪魔となったのだろう。

最後に伝えられていることはクウォーターストーンの街で起こった戦闘である。人間の反乱軍と強力なヴェルガーの守護者であるサタナムーラとの戦い、彼女はエイトデーモンの力を蓄えているとされたアルターオブアンダイングを守っていた。何が起こったのかは正確には記述されていないが、アルターの破壊は世界を純粋な混沌へと急落させ、厚い氷で覆い尽くし、全ての生ける者たちをその場で凍りつかせた。

## 0 AC

### The Great Collapse

#### 大崩壊

8つのイクランの人間たちと最後の同盟からのデーヴィの奴隷の使い手はヴェルガーとの戦いで魔法の力の源であったアルターオブアンダイングを破壊した。しかし、自由の代償は大きかった。アルターの破壊は世界自体をも破壊し、様々な破片を魔法の力渦巻く海、デッドスペルストームへと放り出した。



## 0 - 500 AC

### Death's Dream

#### 死の夢

この期間に何が起きたのかはほとんどの学者に知られていない、彼らの中にはこの期間が500年続いたということさえ納得しない者もいる。わかっているのは世界の残留物、グレートコラップス（大崩壊）で瞬間的に魔法の氷の包まれた様々な破片や欠片は、このときも不滅の氷に覆われていた。これはアルターオブアンダイングから魔法の力が開放されたあとで形成された信じられているので、氷はアルターが破壊されたことに由来すると仮定される。この期間の間、グレートコラップスの生存者は皆凍りつき、深い眠りに捕らわれていた。

## 501 - 524 AC

### The Awakening

#### 目覚め

##### ■ 501 AC

バーバリアンシール（蛮族の封印）がクウォーターストーンに衝突し、その結果アンダイングアイスが溶け、囚われていた者たちを解放した。バーバリアンシールは実にアルターオブアンダイングの一部分であった。アルターが爆破しグレートコラップスが起きた後、アルターの欠片はデッドスペルストームの中に残っていた。これらの欠片のひとつがクウォーターストーンにぶつかりアンダイングアイスを溶かしたのは単なる偶然だった。この名前は、欠片がアルターに描かれた壁画の、バーバリアンヒューマンが戦っている姿を表した部分だったということに起因している。

魔法の眠りから目覚めたとき、ヒューマンとデーヴィの生き残りたちは世界の運命を目にした。彼らの知っている世界はもうなかった。空と太陽は失われ、怪物のような岩に覆われていた。真実を把握するには時間がかかると思われたが、その間にもイクランが再興され生きる道を探り始めた。

##### ■ 524 AC

バーバリアンシールを用いたクォーターストーンのアンダイングアイスを完全に取り除くと、そのなかに巨大な卵の貯蔵庫があるのをハイ克蘭は発見した。これはヴェルガー・クイン サタナミュラの卵であり、小さなヴェルガーが生まれてくることわかった。この飛行生物が「ヴェルガースティード」として手なづけられ、これでクォーターストーンの周りを飛び回ることによってレートコラップスの本当の規模が知られることとなった。

## 525 - 631 AC

### The Age of Expansion

#### 発展の時代

新たに起用されたヴェルガースティードを用いたデッドスペルストームの中へ冒険することで、ハイ克蘭はパリアメントシャード（大陸）を発見した。

#### ■ 527 AC

パリアメントの発見の後、この所有権をめぐりハイ克蘭間で対立が起こった。個々の克蘭が最初に足を踏み入れたこと、最初に発見したことなどを理由に、新たな支配権の指導者となることを主張した。しかし、トルク・克蘭の「内なる」指導力によりこの対立は解決された。

#### ■ 528 AC

この混乱の結果、ペイル・克蘭、オニックス・克蘭、ルーン・克蘭、そしてヴォイド・克蘭は他の4つとの同棲しても自分らには何も残らないと判断した。彼らは他のハイ克蘭を去りヴェルガースティードでデッドスペルストームの中へと旅立った。しかしルーン・克蘭だけは最後の最後に考えを変えた。ペイル・克蘭、オニックス・克蘭とヴォイド・克蘭はデッドスペルストームへと旅立ち、マウル・克蘭、ルーン・克蘭、シュラウド・克蘭、シルバー・克蘭、そしてトルク・克蘭は残った。出発の後この3つの背教の克蘭に何が起きたかは誰も知らない。しかしながらただ一つ、パリアメントに残った誰もが確信していることはあった。あれからオニックス、ヴォイド、ペイルは「トレイター克蘭（裏切り者の克蘭）」と呼ばれている。

#### ■ 530 AC

残った5つのハイ克蘭はパリアメントのさらに奥地へ冒険することでここへ定住を決定し、パリアメントの新たな大地に建造物を建て始めた。それ以来、このシャードがスペルボーン世界での政治的中心地となった。

#### ■ 532 AC

クォーターストーンの近くにデッドスペルストームの中を自由に航行するフラグメント（外殻のない島）が現れた。このフラグメントには巨大な寺院が乗っており後にスカードシタデル（氷食された要塞）と呼ばれた。この中からアンデッドの軍隊を率いるプリンセスオブスカルが現れ5つのハイ克蘭を襲った。彼らは襲い来る敵たちの猛攻撃を生き延びようと戦った。この血塗られた戦争は数年間続くこととなる。

#### ■ 534 AC

トルクの勇者、グレイドロム＝マローはクォーターストーン中心部に隠されていたオラクル（予言するもの）を発見した。オラクルの教えを可能な限り多く受けるために新たな聖職ヴェリダンが発足され、これと並行してグレイドロム＝マローは人間として初めてオラクルによるアンセストラルドリーム（祖先の夢）を見た。その変移した時代と場所の夢はプリンセスオブスカルとその打倒法を伝えていた。プリンセスオブスカルについてはわずかな記録しか残っていない。それによると彼女は青白い肌を持つ非常に凶悪な存在で、周囲を恐ろしい操られたスケルトンで覆われていた。長く黒い爪と長く病的に黄色い髪が彼女の羽織るボロ切れを引き立たせていた。ただ一つそこに似合わなかったのは彼女の頭に輝くクラウンだった。

#### ■ 535 AC

グレイドロムは他の克蘭から4人の勇者を呼び集めた。そしてスカードシタデルへとヴェルガースティードで旅立った。そこへたどり着くと、グレイドロムと戦士たちは建物の奥深くへと冒険していき、その間にスカードシタデルはデッドスペルストームの中へと飛び去った。それ以来、グレイドロムたちもプリンセスオブスカルもスカードシタデルも二度と見られることはなかった。彼らに何が起きたのかはわかっていないが、未だにデッドスペルストームを彷徨っている可能性は考えられる。グレイドロムと4人の仲間たちの献身的行為によりハイ克蘭は生き残ることができた。この真の勇者たちを称え、5つのハイ克蘭は民を導き、デッドスペルストームからくる何者からも民を守る新たな同盟を作った。これがエンクレイヴ・オブ・ファイブ・サクリファイアの誕生である。

#### ■ 536 AC

エンクレイヴオブファイブサクリファイアの新たな指導者となったオラクルが、さらなるエンクレイヴの拡張先としてマウントオブヒーローズへの道を指し示した。

#### ■ 538 AC

シャードの探検とアンダイングアイスからの解放が終わると、エンクレイヴはウエストデルへと移住を始めた。アンダイングアスを解凍することでエンクレイヴは新たな土地を発見させるだけでなく、恐ろしい敵、ハウラーをも呼び起こしてしまった。

#### ■ 546 AC

ハウラーの戦いが始まる。ウエストデルはハウラーの猛攻撃により完全に破壊された。

#### ■ 550 - 551 AC

エンクレイヴはハウラーに抵抗している間にボルトフォートという新たな移住先を見つけた。この砦によって攻撃を克服し、ハウラーの戦いに終止符を打った。

#### ■ 593 AC

数年のデッドスペル内の実らぬ探検を経て、エンクレイヴはついに新たなシャードを発見した。バーバリアンシールで解凍を進めていくと、彼らはスペイアフォークという新たな部族を眠りから覚まし知り合いとなった。

## 632 - 654 AC

### The War of Shadow's Hammer

#### シャドウズハンマーの戦い

パリアメントシャードが発見され5つのハイ克蘭がそれぞれ拠点を設立し、プリンセスオブスカルとの戦い、エンクレイヴの発足を数経て数年が経ち、パリアメントは克蘭政治の中心となりエンクレイヴの行政中心地となっていた。

クウォーターストーンのくぼ地はさらに深く発掘され、テンプルオブオラクル（オラクルの寺院）は街の中心に移設された。オラクルが意識をデッドスペルストームへと向けることができるようクウォーターストーンのアーチ状の天井を貫くシャフトを作るようハイクランに命じてから、ヴェルガースティードで天穴を通して街にたどり着けるような大きなトンネル工事計画が開始された。5つのハイクランは世を超えた発掘事業を請け負ったのだ。

さらに数年が過ぎ、エンクレイヴの拡大はリングフェルを見つけるに至った。もう一度災いが降りかかるまでエンクレイヴは100近く平和と繁栄の時代を迎えていた。エンクレイヴの平和は永遠に続くと思われた。間もなくプリンセスオブスカルの戦争は忘れられ、新たなシャード領域の探索とデッドスペルストームの探検は休みなく続けられた。

この恐ろしく怒れるマナのヴェールの中で、探検者は新たな領域を発見した。マウントオブヒーローズの最初の発見から約一世紀後のことだった。アンダイングアイスに覆われアンセスターワールドの崩壊からそのまま触れられずに静かに残っていたこの領域はカーニクスと呼ばれた。

エンクレイヴはこの新たな領域にパーバリアンシールを持って行きを自分たちのものにしようとした。がそのとき、ヴェルガーに作られ仕えていた種族ヴウールを呪縛から解放してしまった。彼らはパーバリアンシールを奪い多くの生存をかけた大戦争が勃発した。

この恐怖の日々がやってくるまでは、エンクレイヴオブファイブサクリフェイスは何も恐れるものがなかった。英雄と勇者の新たな世代が生まれ、忘れ去られていた知識と科学が再発見され、エンクレイヴの土地により効率的な建設が進められた。ハイクランは力強く自信に満ち溢れるよう成長した。これを象徴するのがアリオンスイスカリ、スケール（尺度）のハイクラン：トルクの勇者である。若き日のグレイドロン＝マローが陰湿で恐ろしい印象を持たせ、自らを恐怖の運命に従わせていたのに対し、アリオンはまったくの対極であった。彼は明るい性格で、目を見張る体格と並外れた才能と技を併せ持ち喜びに満ち溢れる祝福を受けていた。カーニクスを見つけてすぐは、エンクレイヴはここに見失った3つのハイクランが拠点にしているようではなさそうだと探検して回った。この領域は完全にアンダイングアイスで覆われ部外者に荒らされた様子はなかったからだ。この結果、パリアメントからカーニクスへとパーバリアンシールを持って行き、アイスから解放してすぐに移住を始めることとなった。ロープのハイクラン：マウルの勇者ロガー＝ヘディン＝ザ＝ウォーストライカーと、シュライン（聖堂）のハイクラン：ルーンのレディ＝コーミュセスタが、カーニクスへとパーバリアンシールを持って行く者として選ばれた。数百の戦士と作業員の行列を同行させクウォーターストーンでの祭典のあとカーニクスへと旅立った。



彼らは戻らなかった。

数週間後、ヴウールによる最初の攻撃が始まった。岩から作られた奇妙な飛行船に乗り、鳥のような姿の生物たちがハイクランの領域へと入り込んだ。クウォーターストーンへの侵略は容易に撃退された。また、パリアメント、マウントオブヒーローズ、リングフェルも同様だった。しかし生物は来ることをやめず、時間が過ぎるとともに数を増し、年ごとに力を増していった。

アリオン＝イスカリが他のクランの勇者と共にヴウールを倒しカーニクスを手に入れようと決意したのはこのときだった。グレイドロン＝マローがやり遂げたように（ただしアリオンは帰還するつもりだった）、彼らはヴェルガースティードで軍隊を率い、強力なアーティファクトや武器、スペルを用意して、神霊が宿ったかのようにカーニクスの地に降り立った。

しかし、ヴウールにはエンクレイヴがこれまで遭遇したことのない古代魔法を使うプリーストがいることを誰も知らなかった。これらの鳥のようなプリーストの中にエルダーがいた。プリンセスオブスカルがそうだったように、ムーミアの魔法の知識を持つ生物だ。それは「アーチフェル」と呼ばれる全てのヴウールとプリースト階級のリーダーであった。アリオンがヴウールの大群や船と戦っている間に、アーチフェルは彼の魂を奪い、精神に憑依し、「ファーストライトオブヘブン」を他の勇者に対する者へと変え、イスカリが連れて来た者たちを皆殺しにした。

ハイクランはアリオンが勝利の知らせと共に帰還するのを待ち望んでいたが、代わりにもっと大きな恐怖でもてなされた。イスカリは今やヴウールの操り人形となり、それらの大群を率いてエンクレイヴを襲った。彼のかつての兄弟たとのいくつかの戦いの後、エンクレイヴの最良の戦士たちを倒したことで、アリオンスイスカリは「シャドウズハンマー」として知られるようになった。この戦争の間エンクレイヴの民にもたらされた破滅により、彼はさらに恐れられ嫌悪されるようになった。

エンクレイヴによってアリオンを説得するために派遣されたトルクの戦士たちは、完全に墮落させられ彼の側についていた。アリオンはこれまでエンクレイヴによって不当な扱いを受けていたと戦士たちを説得し、エンクレイヴが発見する前にできるだけ多くの大破壊をもたらすよう送り返した。この「アリオナイツ」によってパリアメントそしてクウォーターストーンもたらされた大虐殺はエンクレイヴがかつて経験したことのないものだった。この衝撃は大きかった。

マウルとシュラウドは自らの決意で共に行動することを決めた。トルクは失敗し信頼を置いていた最高の戦士と勇者たちを失ってしまったからだ。軍法の族長制度における信用できる相手として、マウルのミュラ＝カイジンは彼女が見つけれられる最高の暗殺者たちを集めた。そしてシュラウドがあばくことができたデッドスペルストームに浮かぶ廃墟についての秘密情報の助けを得て、アーチフェルを見つけ倒すため旅立った。

そう、トルクの勇者は見逃し、ヴウールの巣の心臓部に潜み鳥のプリーストキングを倒すよう、マウルの者とシュラウドのアサシンは送り込まれたのだ。彼らは一人も戻らなかった。心ないヴウールの大群が救世者を奪ったのだ。それにもかかわらず鳥どもの力は壊れ、エンクレイヴに対する攻撃は収まった。

しかし、シャドウズハンマーが最終的に捕らえられ処刑されていたとしても、彼の信奉者はエンクレイヴ中に潜んだままとなっている。カーニクスはヴウールの大群の支配下におかれたまま、鳥どもとアリオナイツが数世紀にわたりエンクレイヴにとりついている。

655 - 849 AC

## The Era of Lessons

### 教訓の時代

ヴァールの攻撃により過酷な教訓を学んだエンクレイヴは、団結力を増し防衛の損害を修復し始めた。その頃、オラクルは全てのハイクランのハイロードとハイレディに出席を求めた。彼らはクウォーターストーンのテンプルオブジオラクルに集った。しかしオラクルが話し終えたとき、彼らはその言葉から真実を見出すことができなかった。この不信感により、来たる数世紀の間オラクルは沈黙を保ち、エンクレイヴは導きを失った。

教訓の時代には多くの学者や職人が生まれた。彼らはクウォーターストーンに新しい建物をデザインし建築した。宮殿、劇場、闘技場が作られ、間もなくして他のシャードにもこの建築技術が広まった。この時代の繁栄はエンクレイヴにとってこれまでにないものとなった。

この時代の間エンクレイヴは偉大な発見をした。デッドスペルストームから得られる原料で有用なものを造れるようになった。その中でも最も目立つ変化がヴィトリダー、レヴィウム、アंकストーン浄化、形成だ。これによりシャードシップや様々なアイテムを作りデッドスペルストームの奥へと冒険できるようになった。

貴重な鉱物を採掘することは障害を伴った。マウントオブヒーローズの鉱山にはハウラーと呼ばれる邪悪で悪質な生物が住んでいたのだ。ハウラーは住民や鉱夫をヴィトリダー鉱山や居住区から追い出した。そして数年間にわたる戦争が起こった。

850 - 997 AC

## The Epoch of Evhiel Muaun and the Tyranny of Tykaru

### エヴィール=ムーアンの台頭とタイカルの暴虐

古き英雄は過去へと消え、新しい英雄が生まれる。この二人の英雄はエンクレイヴとその民の運命を変えた。第一の英雄はエヴィール=ムーアンだ。マウントオブヒーローズに生まれ、ハウラーとの戦争が直撃する中で育った。18才の誕生日、彼女はクウォーターストーンに送られ、その間にオラクルの寺院を訪れた。しかし彼女は引き止められた。オラクルがエンクレイヴのハイクランへの語りかけを拒んでいるため、一般人の立ち入りは制限されていたからだ。エンクレイヴの墮落と、その民の第一の崇拜対象を目の当たりにし、エヴィールはエンクレイヴに理由を聞くように求めた。しかし退けられた。



もう一人の英雄はタイカルだ。クウォーターストーンの下町で生まれ育ち、小悪党や傭兵として数年すごした後、クウォーターストーンの衛兵に採用された。決断力と偉大な能力のおかげで彼はチャンピオンマスターの名譽ある地位に上り詰め、誰からも信頼された。

数年が経ち、エヴィールは祖先の偶像崇拜を頑なに信じる多くの信奉者を得て、オラクルの真の教えを享受し始めた。これがハイクランにとって厄介な存在となったため、エンクレイヴは彼女を逮捕し法廷の場に立たせることを決定した。彼女を探し逮捕する役目を仰せつかったのは他の誰でもなくタイカルだった。彼が任務を完了した後、エヴィールはハイクランの長老達により尋問された。この尋問の間、彼女はハイクランの考え方の墮落を指摘し、核心にまで触れたため、彼らの怒りを買ってしまった。この横柄な態度によりエヴィールはエンクレイヴから追放され、残りの人生をフズベルフリーにて幽閉されて過ごすこととなった。

エヴィールを牢獄まで連行したのはタイカルだった。現地までの長い旅路の間、二人は恋に落ちた。このため、タイカルはついにエンクレイヴを裏切り、エヴィールと共にデッドスペルストームの奥深くへと逃避した。

数年が過ぎ時代が変わった頃、エヴィールはエンクレイヴに新たな脅威を知らせるため舞い戻った。それはかつての恋人タイカルだった。彼は兵を集め力をつけることに専念し、そうしているうちにエヴィールと彼女の信じるオラクルの教えから遠ざかっていた。彼女はエンクレイヴに来たる脅威を知らせるため彼の側から逃げてきたのだ。しかしもう遅かった。エヴィールが切迫した脅威についてエンクレイヴを説得しようとしているとき、リングフェルとマウントオブヒーローズの街はタイカルの軍勢により襲撃され、略奪、破壊されていた。



そこでエヴィールは自分をオラクルの寺院へと通すようエンクレイヴを説得した。オラクルこそが彼女にとって最後の頼みだった。オラクルはエヴィールに話しかけた。この差し迫った悲運からエンクレイヴを救うのに何が必要かを語りかけた。オラクルが話したのはこの二百年の間で初めてのことだった。  
タイカルとその軍勢がクウォーターストーンに押しかけたとき、エヴィールとエンクレイヴの軍勢が彼らを出迎えた。長く血塗られた戦闘が起こった。エヴィールは辛うじてタイカルをエンクレイヴのシャードから遠ざけることに成功し、デッドスペルストームの奥へと誘い出した。  
その後数年の間、エンクレイヴは戦闘のあとに残った廃墟を再建しはじめた。彼らはまたも壊滅の淵に立たされ、そしてまたも勝利した。エヴィールとタイカルの運命については誰も知らされていない、おそらくオラクルがかつての恋人たちの行く先を照らすであろう。

## 998 - 現在

### The Time of the Enclave

#### エンクレイヴの時代

オラクルの教えがエンクレイヴが最初に想像したものよりも大いなる力を持っていると気づいたとき500年が経っていた。古の英雄たちは歴史の記録やエンクレイヴハイクランの階級に掲げられ、オラクルの教えではない卑しき祖先の偶像崇拜は今や眉をひそめる。過去の歴史的記録が終幕を迎え、世界はデッドスペルストームのさらなる奥地へ旅する新たな英雄たちを受け入れはじめた。自らの未来をスペルボーン的年代記（クロニクルスオブスペルボーン）に綴る者たちを。

